

令和8年度 第1回名張市障害者施策推進協議会 会議録(概要)

日 時：令和8年7月9日(木) 14:00～15:40

場 所：名張市防災センター防災研修室1・2

会 場 出 席：守屋國光会長、市川知恵子副会長、耕野一仁委員、後藤恵一委員、早川和江委員、
上西孔美子委員、山本弥生委員、中野篤志委員、川瀬尚俊委員、陀保鷹志委員、
西山嘉一委員(順不同)

リモート出席：村上好生委員、増田大介委員、村田省三委員、前川良文委員(順不同)

事 務 局：福祉子ども部 中木屋、障害福祉室 奥本、上田、及川、西岡

1. あいさつ

【会長】福祉の問題は色々な事に波及していき、関連がある。忌憚のないご意見を発言いただきたい。

(事務局)

- 人事異動に伴い交代された委員に委嘱状の交付(任期は令和9年3月31日まで)
- 出席・欠席委員の紹介(会場出席11名、リモート出席4名、合計15名で会議成立)
- 会議成立の報告と、傍聴公開(0名)の確認

2. 議 事

(1) 名張市の現状と計画の推進等について

【事務局】 ～説明～

第7期名張市障害福祉計画の期間は、令和6年から令和8年度までの3年間で、今年度で終了となる。第8期名張市障害福祉計画の策定に向けて事務を進めている。

障害福祉の政策を考えるにあたり、人口等の背景は非常に大きな要素となる。人口は年々減少し、出生率も減っている。また世帯人数も減り、単身世帯が増加。家族の支援のみに頼る事が難しい環境であり、医療や福祉サービス等の情報を得る機会が減っていると予想される。また、手帳交付数は増加しており、手帳取得者の18%が福祉サービスを利用しているが、利用がない方の生活の全ては把握できていない。小中児童生徒数5,414人のうち、長期欠席が364人、不登校が227人おり、障害を有する子どもや疑いのある子どもという事も背景にあると考える。不登校という切り口での事例の相談も年々多くなっている。

第六次名張市障害者福祉計画の8つの基本分野を説明する。

① 啓発と交流の促進

合理的配慮と理解・連携の推進について小委員会を開催した。また、障害者週間に合わせて、市広報に啓発記事を掲載。参加体験型イベント「ともにかんじる・つながるフェスタ」を開催し、実施側も参

加者も生き生きと楽しく交流や表現ができ、障害の支援に関連した方々に多く参加いただいた。

② 福祉サービスの充実

基幹相談支援センターと相談支援事業所を軸に、介護や子ども、教育、司法機関等各機関との制度をまたいだ支援の実践や質の向上のため、研修実施に努めた。今後も必要な人が必要な量のサービスを利用できるよう、また支援の質をどのように把握し、向上していくかについて、自立支援協議会にも図る。

③ 雇用・就労の充実

伊賀圏域の就労部会で、雇用啓発やワーキンググループの活動、企業向け研修会を実施する等により、障害者雇用や福祉施設の施設外就労協力企業の発掘につながった。また、名張市障害者人材センターと共に一般就労に向けた支援を行い24人が一般就労につながった。

④ 育成・教育の充実

インクルージョン推進体制として、母子保健、発達相談、医療、個別乳幼児特別支援、特別支援教育、障害サービス等の支援者連携が図れるよう調整に努めた。また、不登校の障害児の学校時間中の放課後等デイサービス利用における仕組みづくりを行った。

⑤ 生活環境の整備

医療的ケア児と重心障害児の個別避難計画作成を進め、障害分野から把握した課題を取りまとめて関係部局に提案し、避難行動要支援者登録の案内対象の変更や計画作成要件等の制度の修正につなげる事ができた。また、民生児童委員やまちの保健室が、障害者やその家族も相談がしやすい場となるよう、研修会や事例を通した連携を行った結果、相談件数が前年に比べ629件増加した。

⑥ 保健・医療の充実

保健師職を中心に精神科や救急、地域のクリニック、子ども発達支援外来、病院ソーシャルワーカー等との連携を図り、医療機関からの相談や支援の依頼が増加した。また、保健所との情報連携や協働支援の機会が増えた。

⑦ スポーツ・文化芸術活動の充実

名張市障害者スポーツ大会実行委員会により「名張市障害者スポーツ大会」が開催された。「ともにかんじる・つながるフェスタ」では、アート作品の展示や、合唱、楽器演奏、障害者スポーツ体験等が行われた。

⑧ 推進基盤の整備

手話奉仕員養成講座、農業ジョブトレーナー養成研修、生活支援員養成講座等様々な研修を実施し人材育成に努めた。

【委員】 身体障害者の相談員をしているが、身体に関する相談はなく、療育に関わる相談が多い。施設入所はあっても退所はなかなかないと聞く。施設はあくまでも居場所づくりという事で運営しており、経験や体験のメニューは広めているが、そのようなメニューで良いのかと時々思う。また、施設の中身や環境、預けている子どもの様子を職員から間接的に聞いて、他施設へ移ろうかと思うといった話も聞く。あえて“現状を知らない状態で安易に言うてはいけない”と伝え、事態を納得してもらえるようにしている。

【会長】 最初に名張市障害者福祉計画を作った当時は、皇學館大学福祉学部や市立病院が開設される

等名張市に勢いがあったが、今は人口が減って福祉費用は年々増加傾向にある。

【委員】 障害者サービスを利用する施設で色々な経験をして成長する方もいると思うし、合わない方や難しい方は、個別支援計画で個々に合わせて施設や障害福祉室が支援をしていると感じている。具体的ではないが、支援者が一生懸命していても、外部の方からあまり良くない事等を言われて、上手くいかないといった事があると思う。

【委員】 在宅ワーク・在宅訓練の希望が増加とあるが、具体的にどういった事をするのか。また、障害特性があり、外に出られないから仕方なく在宅ワークをするのか、希望して在宅ワークをしているのか教えてほしい。

【事務局】 様々なパターンがある。家から出にくい状態の方の選択肢が広がる事は、働く機会の充実として素晴らしいと思うが、訓練になるかどうかは一人一人の希望や状態、支援する側の質による。在宅ワークのニーズや支援する事業所は増えているが、元気に仕事に向かえるかは個々の状態による。リモートの事業所は大阪が多いが、本市では事業所の支援体制を相談支援専門員と1件ずつ話し合い、事業所を見に行きながら進めている。一概に駄目・良いではなく、生活リズムを整えて健康が損なわれる事がないよう併せて考えている。

【会長】 福祉のあり方として、流れは一方向になりがちだが、双方向にしないといけない。しかし双方向にするには時間と労力、それ以上に理解が必要。人口が減っている名張市がどこまでできるのか。また、福祉サービス利用者がどう感じ、どう考え、どうしてほしいのか丹念に調べる必要があると思う。

【委員】 手帳の交付人数は5,347人とあるが、これは子どもも含んでいる。雇用するにあたり、実際に働ける割合はどれくらいか。

【事務局】 18歳以上の身体は3,257人、療育は707人で、精神1,133人の多くは大人で、子どもは少し。ただし、障害程度や個々の疾病、働く意思の有無は反映できていない。また、働くには様々な生活の技術等もあるので、手帳交付数が一概に母数にならない。

【委員】 ハローワークも就労継続が大事だと感じている。事業所や採用担当者は障害者理解がある方も多いが、普段接する従業員はどうすればいいか分からず、理解が進まない事で早期退職する方が多いと感じている。一般就労の継続をどうすれば良いか。すごく共感する。

【会長】 7月1日から障害者雇用率が2.7%に改正された。企業だけではなく農業も立派な就労である。農業やその手伝いをカウントして障害者雇用率を満たせ、ペナルティーで上がってくるお金をそちらへ回す等の配慮があればいいと思う。個人の農家は企業の形をとるのが難しく、世間一般の雇用の概念に当てはまらない。その辺りをハローワークでうまく対応していただけると、障害のある方の働く場も充実するのではないか。

【委員】 三重刑務所の取組協力による福祉的就労との連携の取組みについて、昨年からは月1回三重刑務所に行き、受刑者と一緒に園芸活動をしている。受刑者がすごく熱心で手ごたえのある活動である。高齢者や障害のある方を中心に支援をしており、実際に農業が就労につながるよう、受刑者が私達の農園に来て栽培や収穫等の見学も行っている。実際にやってみたいという方もおり、効果が上がっている。刑務所は懲らしめるための場所ではなく、就労や社会復帰に向けての活動に変わりつつあり、ぴったりの活動を展開している。刑務所からも喜びの声を聴く事

が多くなってきた。

【委員】 市内の特別支援学級数は、令和2年度は67クラスだったが、令和7年5月は84クラス。子どもは減っているが特別支援学級数は増えている。数が増えると放課後等デイサービス等の利用者も増える。学校と施設が連携をする必要があり、連絡会議等を持ちながら支援をしている状況である。また、全国的に小中学生の不登校が増えており、大きな課題になっている。本市は少し減っているが依然として高止まりの状況である。その中で、不登校の子どもが通うさくら教室にも特別支援学級の子どもが増えてきた。以前と変わってきているのは、さくら教室に通いながら学校に行っている子どももあり、学校にある程度行ける子どももいる。

【会長】 語弊があるかもしれないが、個人的に特別支援学級の在宅児童生徒は、どうしても福祉の取り組みから外れているのではないかと思う。特別支援学校が望ましい障害程度の子どもも在籍しており、特別支援学校は組織的でまとまりがあり対応しやすいが、特別支援学級は組織的なものがなく福祉の手が及びにくいのではないか。その辺りをどう充実させていくのか。名張市として手立てをする必要があるのではないか。

【委員】 生活環境は、なばるの会・精神障害者の一番の悩みである。20年前に比べて市の援助やサービス等の福祉が様変わりしており、ありがたい状態。それでも親が高齢化して子どもが大きくなっているが、次の段階というか生活が決まらない。子どもが納得する動きが取れないので何も動かない。グループホーム等はあるが使えない状況。福祉サービスを精一杯使い、市役所も相談に乗ってくれるが、親は、疲れ果てている。あるのに使えない状況をどう打開すればいいか、要求・要望を出していけばいいか分からない状況である事が現実である。

【会長】 日本の福祉は充実していると思うが、利用者は将来の展望ができているのか。安全安心できる状況は確保されているかもしれないが、一人の人間として“人生良かった”と思える展望が、今の福祉ではどうだろう。制度等ではないが、未来を共有できるような展望が開ける福祉が将来あれば良いと思っている。

【委員】 雇用の点でも難しい問題があると思う。世代によって考え方に若干のずれがあると思う。それに対して、表現方法等も含めて考えていかなければならないと思う。そういった事も含め、障害や福祉を考える必要が起こっているのではないか。

【会長】 以前から“福祉や教育の風土”の話をしている。風土の問題を何かに置き換える事は難しいかもしれないが、風土のあり方や問題を考える時期にきているのではないか。これから先にどんな問題があるか、本協議会で論じられたら良いと思っている。

【委員】 名張市だけではなく、人口が減り、子どもが減っている状況で、療育手帳や精神障害者手帳、難病の受給者証の取得者が増えている。これは制度の周知が進んで皆さんが利用するようになったと考えられるので、今後も必要な方に必要な制度が届くような制度を取っていかなければならないと思うが、人的・物的な制限もあるので、どの様にするか今後の課題だと思う。

【委員】 身体障害者互助会の会員数が80名と少ない。障害を持っている方に話をして入っていただけるようにしたい。

【委員】 市の障害福祉サービスの利用者が18%とあるが、その数字を市はどう受け取っているのか。名張市は固定資産税の税率見直しがあるが、お金を十分使ってもらえるか心配している。

【事務局】 全国統計でも2割。本市では障害者手帳取得者が増えている。母数が違うので比べられないが、18%は若干少ないと感じている。一人一人の声をいかに拾い、生活実態が困り切る前にどう把握するかが大切だと思っている。

【会長】 以前から名張市障害者スポーツ大会に参加しているが、障害のある方や関係者しか参加していない。まちづくり等の人達を招待し、タイトルも少し変えて皆が参加できるような大会にしよう。行事を組む際は色々な方に参加してもらって自由闊達な意見を出していただき、様々な方達に参加してもらえるようにしてもらえればと思う。

【会長】 名張市だけではなく、日本全体の問題。福祉や医療の人材をどうするのか、どう考えるのか。理念の問題は出にくいかもしれないが、方法があるのではないか。そういった話を本協議会で話し合えればと思う。

（2）障害者差別解消法 合理的配慮に関する報告

【事務局】

（事例1） 選挙にて

期日前投票の受付でサポートを希望した。投票時にサポート職員から投票用紙の書字を見られ、「障害があるから書き順がばらばらだ。」と言われてショックを受けた。

選挙管理委員会に報告し、投票時の合理的配慮の大切さを選挙担当者と共有した。

（事例2） 支援が得られやすい住居

相談は本人・家族から。様々なサービスを使いながら賃貸アパートで单身生活をしている。ベッドから車椅子の移乗のためにリフトの設置をしたいが、住居は狭く設置すると車椅子や介助者が通れなくなる。市営住宅を希望するが1階に空きはなく車椅子用の部屋はないと聞いている。住宅室と共有し、障害者の住まいの確保のしやすさや介護負担軽減のための設備について、今後協議していく事となった。

（事例3） 就労にて

相談は就業先企業から。トライアル雇用中であつたが、「体調不良をきっかけに欠勤が続いており心配している。障害のある方の初めての支援のため、配慮すべき事を知りたい。支援についての知識がない。」と話が あつた。ハローワークに「精神・発達障害者しごとサポート養成講座」の実施を調整し、従業員研修として実施された。当初は職場復帰予定であつたが、その後本人の意向で退職となった。

（事例4） クリニックにて

相談は、入所施設から、地域連携推進会議で共有された。施設職員が同行してクリニック受診後、クリニックから「他の患者に迷惑のかかる状況であつた」と施設に苦情があつた。

地域連携推進会議で意見や改善点を聞き取った。

【委員】 ≪支援が得られやすい住居≫在宅で必要な福祉用具の導入ができない場合、本人も困るが介護ヘルパー等の腰痛防止が取れず負担が大きい。この方は、名張で暮らし続けたいという希望があり、今、在宅で生活ができているのであれば、リフトの導入が出来れば支援を受けながら生

活ができる。導入できないから施設入所というのは酷だと思う。障害が重くて介護状況であっても本人が望む生活が継続できる名張であってほしいので、協議をしてリフトの導入ができるようにしてあげてほしい。前例があると関係者も自信が持て、事例が増えるのではないかな。

《就労にて》知的障害・精神障害の方は大きな声がとても恐怖。自分に対してだけではなく、隣の人や離れた人に向けてであっても怖い。何故トライアル雇用に入る前に、就労先企業や現場職員に特性や支援方法等が伝えられなかったのか。就業先企業が悪いのではなく支援体制の問題だと思う。知的障害・精神障害は特性や苦手な事、支援方法が一人一人違う。そのため一人一人について伝え、細かく調整を行いながら支援を継続するのが雇用継続の基本。準備が不足していたのではないかな。

《クリニックにて》法人の問題ではないと思う。大きな声を出すのであれば“受診はシャットアウト”と悲しい思いをした。しかし他患者やクリニックから見れば違和感があったという事なので、待ち時間の配慮や予約を取る等、互いに協議ができればありがたい。このような事例を通じて、障害の理解や啓発が進むと思っている。

名張市は基幹相談支援センターが機能していると思うが、啓発や本人の意思・納得がなければ良いサービスがあっても、将来の展望が開けず安心できない。障害のある方は、特定相談でプランを作成し、事業所と個別支援計画を導入しながらサービスを使う仕組みが定着しており、合わなければモニタリングをしたり、事業所が合わなければ計画相談と話し合い、違う事業所に移ったりする事もできるが、サービスを使わない方の意思や人生の不安、障害の軽い方や精神障害の方の問題はあると思う。その辺りはきめ細かく個別対応していく事になると思っているが、基幹相談支援センターが対応しているのでありがたいと思っている。差別解消法についても、個別ケースを通じて関係者と協議を重ねる事で、前に進むのではないかなと思っている。

【会長】 報告を聞き、一方向的な流れが強すぎると感じる。やはり両方向からアプローチが必要。大きな声を出さないでほしいという事もある意味当たり前の事。私は両方向が相まって初めて福祉が成り立つと思う。今の時代、公助がどんどん肥大化しているという気がしてならない。もっと自助・互助・共助・公助のバランスを考えないといけない。どうしても我々は一方の当事者の立場だけを論じる方向になってしまうが、世の中様々な立場の人が存在し、社会が成り立っている。その中で障害者福祉も進んでいるので、両方向からアプローチし、それが相まって初めて障害者福祉が健全に進んで行くのではないかな。

3. 報 告

- 名張市障害者就労施設等からの物品等の調達方針について

【事務局】

令和7年度の実績は、物品は目標額20万円に対して、実績が136,880円。役務は目標額50万円に対して、実績が633,350円。

令和8年度の調達目標は、物品は20万円、役務は50万円。令和7年度と同額の目標とした。

本年度も、全庁的な取組みとして障害者就労施設等の提供可能な物品及び役務についての情報を一

覧表にまとめ、組織全体で共有し、可能な限り障害者就労施設等への発注に努め、調達目標が達成できるよう啓発に努めていく。

4. その他

【事務局】 第2回協議会は、令和9年2月から3月の開催を予定している。決定次第、文書で案内するのでよろしくお願いしたい。

【福祉子ども部長】 一人一人議論をさせていただきたいところではあるが限られた時間であった。当事者だけではなく幅広く地域の皆様に理解いただけるような施策や取り組みを進めたいと思っている。今、国の指針に基づき、第8期名張市障害福祉計画作成の準備を進めているので、次回議論をいただきたい。

【事務局】 以上で、令和8年度第1回名張市障害者施策推進協議会を閉会させていただく。